



PHYXAM(電子カルテ対応症状・所見標準マスター(身体所見編)) セミナーの開催について

「保健医療分野の情報化に向けてのグランドデザイン」(平成13年12月、厚生労働省)において、医療情報システム構築の基本的なインフラとして、用語・コードの標準化が重要であることが述べられ、(財)医療情報システム開発センターより、病名、手術・処置、医薬品、臨床検査、医療材料、看護用語、歯科領域用語、画像検査にかかる標準マスターが開発・提供されています。

これらに加え、プライマリケア学会及び内科学会専門医会が協力し、症状・所見分野における標準マスターとして、「電子カルテ対応症状・所見標準マスター(身体所見編)」(以下PHYXAMという)を開発し、今般、その評価版を提供することとなりました。

つきましては、PHYXAMの開発の経緯、利用方法、HL7やSNOMED等海外の症状所見マスターの状況等について、医療関係者、ベンダー各社、関係諸機関にご理解いただき、評価を進め、よりよいマスターに改訂していくことを目的として、下記の要領で説明会を行うこととなりました。

ぜひこの機会にご参集いただき、マスターに関する理解を深め、幅広いご意見、評価をいただけますよう、ご案内いたします。

なお本セミナーは、厚生労働科学研究費補助金医療技術評価総合研究事業「症状・所見の標準化と診療分析手法の開発」班(主任研究者藤田伸輔)が、医療技術評価総合研究推進事業研究成果等普及啓発事業(財団法人救急医療財団)の補助を受けて開催いたします。

日時と会場(2004.10~2005.01)

日	時	開催地	場 所
10月14日(木)	午後3時~5時30分	札幌	北農健保会館
11月11日(木)	午後3時~5時30分	大阪	大阪社会福祉指導センター
11月25日(木)	午後5時~7時30分	名古屋	国際会議場
12月16日(木)	午後3時~5時30分	福岡	福岡商工会議所
1月13日(木)	午後3時~5時30分	東京	がん研修振興財団国際研究交流会館

主な対象者

電子カルテを開発しようとする者、電子カルテに関心あるベンダー、医療情報担当者、開業医等

説明会の内容と講師(仮題)

- ①用語・コードの標準化の動きについて ((財)医療情報システム開発センター標準化推進室)
 - ②症状所見マスターの情報モデル(東京大学大学院医学系研究科医療情報経済学分野教授 大江和彦)
 - ③電子カルテでの使用例(兵庫医科大学篠山病院 藤田伸輔)
 - ④症状所見マスターの使用例(千葉大学医学部医療情報学教授 高林克日己)
 - ⑤看護マスターの概要について(東京大学大学院工学研究科科学システム工学専攻助教授 水流聡子)
 - ⑥HL7での記載概説(浜松医科大学医療情報部教授 木村通男)
- 注)大江教授の講演は名古屋、東京のみとさせていただきます。

費用

聴講は無料です。ただし資料代として1,000円いただきます。

申込み先

下記サイトより、必要事項を入力の上、お申込みください。
<http://www.medis.or.jp/seminar/phyxam.html/>